

卒業論文体験談

【はじめに】

昨年度、私は「親鸞の同朋精神と現代社会」について卒業論文を作成しました。1年前のこの時期は、皆さんと同じように、年明けの提出に向けて試行錯誤していたことを覚えています。今回は、私自身が卒業論文を作成していく中で思ったこと、又、作成後から今日に至るまでに感じた反省点も踏まえて体験談をお話しします。

12月に入る前までの取り組みとしては、まず幅広く仮題目を設定し、その仮題目に関連する資料を集め、その中から自分がどのような論文を書くのかという大まかな構成を立てました。その後、題目を決定し、再び参考文献等の資料を集め、それらを整理して、論文を書き始めました。

【12月～1月(卒業論文提出)～2月(口述試問)にかけて】

≪12月≫資料を参考にしてひたすら書き続け、年内に完成させる。

1. 自分で一度書いた文章が、不要に思われても、ただ削除せずに、コピーして別に保存しておく。論文を書き進めていく中でその文章が必要になってくることがあります。
2. 論文作成の際に参照した文献(書籍・論文等)は、それぞれまとめて卒業論文の末尾に掲載するので、必ず必要事項を別に書き記しておく。(『卒業論文作成マニュアル』参照)
3. まだ『卒業論文作成マニュアル』で定められた書式に設定していない方は、1万字程度まで書き終えたら、その時点で正式な書式に設定し直すことをお勧めします。正式な書式では序論・本論・結論の間、各章の間、各節の間に、それぞれ定められた空白があります。その為、全て書き終えた後に書式を変更すると、規定枚数を超過してしまうことがあります。
4. 書式の変更(『卒業論文作成マニュアル』参照)、論文の完成、誤字脱字の確認は、年内に済ませましょう。またデータのバックアップは、作業をする度に、複数とることをお勧めします。



≪1月≫提出の直前まで、改めて論文を見直す。⇒提出。

1. 提出時には、書式・構成について細かく確認します。間違いがある場合は、受付にて指摘されます。その場合、指摘された箇所を訂正後、再度提出することになってしまいます。そうならない為にも、提出前にも必ず『卒業論文作成マニュアル』で確認して下さい。



≪提出後～2月初め頃≫口述試問にむけて再度、卒業論文を読み直す。

1. 提出した卒業論文の内容確認等をして、質問に答えられるように準備しておきましょう。また誤字脱字を見つけたら、「正誤表」を作って下さい。(『卒業論文作成マニュアル』参照)

【論文を書き進めていく中で】

- ① 資料を読んでいく中で出てくる用語は、辞書で正確に調べて把握する。また論文の中で自身が使用する語句についても注意を払い、的確に使用しましょう。
- ② 著者の思想や立場によって、同一問題に対してさまざまな解釈がなされています。それを正確に読み取り、整理することが大切です。この論文の土台となる作業が充実していれば、後の考察がより深まり、論文は書き進めやすくなります。
- ③ 上記②のように資料をまとめた上で自身の考えや立場を述べましょう。読者に対して「それらの資料をしっかりと読んだ上で、私はこのような意見を述べます」というメッセージになります。
- ④ 結論は簡潔に。上述の内容を簡単な言葉に置き換えるなどして、改めて説明します。
- ⑤ 論文を書き進めていく中で、常に論文全体の構成を意識して、自分が今書いている箇所がどのような意義を持つものなのか、どのような役割を果たしているのかを考えましょう。(序論で、各章の簡単な内容と、それらの章の論文全体における役割を説明するとよりわかりやすいと思います。)

【おわりに】

卒業論文提出まで、およそ1ヵ月となりました。これまで、就職活動や教育実習、その他諸々の用事に時間をとられて、卒業論文が思うように進んでいない方もおられるかもしれません。また、途中で行き詰ってしまって、この先をどのように進めていくべきなのか、悩んでいる方もおられると思います。そのような方は、すぐにでもゼミの先生や先輩方に相談してみてください。もちろん自分自身で考察していくことが、論文を書く上で最も重要なことですが、先生方にアドバイスを頂くことで、より自分の論文の問題点が明確になります。そして、その明確になった問題点をしっかりと認識することで、より自身で深く考察することができると思います。

* 『卒業論文作成マニュアル』



『龍谷大学文学部真宗学科 卒業論文作成マニュアル 2012年度版』